

愛知県一の産地・西尾でイチゴ出荷が春のピーク 1日に約45,000パック、県内や北陸の市場へ

春を迎え、西尾市では施設栽培イチゴの生産がピークを迎えています。出荷量が最多となるのは4月。出荷場のJA小牧センターでは、多い日には1日に約45,000パック（1パック280個[※]）が出荷されます。

西尾市のイチゴ生産者で組織するJA西三河いちご部会では、89人の生産者が「章姫」「紅ほっぺ」の二種のイチゴを生産。愛知県内では最多の953ト[※]（平成29年度）を、主に愛知県内のほか石川県・新潟県の市場へ出荷しています。

■今年のイチゴの作柄（3月下旬現在）

昨年秋の台風の影響から全国的に出遅れがあり、年明け以降も低温と日照量の不足から、例年に比べて出荷量は少なめ。品薄の影響で単価は高く推移しています。

■取材対応日（生産者ハウス）■

【日時】4月26日（金）午前8時～
【集合】JA西三河 小牧センター
（西尾市吉良町小牧梶見堂3 0563-35-0246）
※集合ののち、鳥羽町の生産者圃場へご案内します。

■取材対応日（小牧センターでの集荷）■

【日時】4月26日（金）午後4時30分～
【場所】JA西三河 小牧センター 選果場



ハウスでの収穫

■産地振興プロジェクト「いちごスクール」2期生 参加希望者募集開始！

JA西三河・JAあいち経済連・西尾市・愛知県とJA西三河いちご部会などで組織するJA西三河いちご産地振興委員会は4月1日より、施設栽培イチゴの就農支援プロジェクト「いちごスクール」の参加を希望する新規就農者の募集を開始しています。

「いちごスクール」は、施設イチゴ栽培での就農を目指す方を対象とする就農支援プロジェクトです。栽培技術などを生産者が直接指導する実務研修から、経営研修・農地取得・補助金申請などをセットに、新規就農・1ターン就農者を専業農家まで育成します。

※ 可能であれば、イチゴ出荷ピークの取組に合わせて、こちらの「いちごスクール」受講生募集についてご紹介頂きたいと思っております。詳しくはこのニュースリリースの3ページ目資料をご覧ください。

西尾市のイチゴ生産の概要

～県内一の大産地、安全・安心なイチゴ生産と高単価取引めざす～

■西尾のイチゴ生産の特徴■

J A西三河いちご部会では89人の生産者が高設栽培（章姫）・土耕栽培（紅ほっぺ）でイチゴを生産しています。生産量953トンは県内トップ。加温したハウスの中で11月から5月頃まで長期にわたる出荷を行っています。出荷量のピークは4月頃。

毎年冬には、需要の高いクリスマス時期に最初のピークを合わせるよう栽培を調整。この時期には業務用イチゴ（主にクリスマスケーキ用）の出荷も行い、安定した高品質が製菓業者に高く評価されています。



小牧センターでの出荷作業

■「虫」をもって「虫」を制す

天敵の利用で農薬使用を抑制■

同部会では農薬（殺虫剤）の利用の抑制とコスト低減・省力化のため、天敵（害虫を捕食する別の虫など）を利用した防除を行っています。イチゴの重要害虫であるハダニ対策として、ハダニを捕食するダニの「チリカブリダニ」を導入し、農薬の使用を抑えつつ高品質のイチゴ作りにつなげています。



天敵資材を設置するイチゴ農家

■4月の朝採りイチゴ

より新鮮でおいしいイチゴ出荷めざして■

同部会では毎年4月、「朝採りイチゴ」の出荷を行っています。「朝採りイチゴ」は市場では『午前0時以降に収穫し、その日のうちに小売店へ届く』ものと定義されています。

農家は毎日午前2時～3時ごろから収穫作業を行い、午前9時には運送を開始。西尾市周辺のスーパーには、早ければ午前中の開店時間に並んでいます。

春を迎えて気温が上がると、収穫後のイチゴの品質低下が早まります。朝採りの取り組みにより、通常の出荷（午前中～昼間に収穫・箱詰め、夕方～夜に集出荷、小売店の開店時間から販売）よりも運搬時間が短く、消費者へより新鮮なイチゴを届けることができます。また農家は高単価で取引でき、収益を増やすことができます。



朝採りイチゴの出荷

【生産者部会情報】

名称：J A西三河いちご部会

部会員数：89人 耕作面積：約17.1畝

流通先：愛知県・石川県・新潟県

出荷量：953トン（平成29年実績、業務用出荷等含む）（愛知県では市町村単位で1位）

収穫期：11月～6月（ピークは4月）

（全国の生産概況）

全国のイチゴ出荷量：150,200トン

愛知県のイチゴ出荷量：9,410トン（東海地方では静岡県（9,950トン）に次ぐ2位）

データ：農林水産省 作況調査（野菜）平成29年度確報

施設イチゴ栽培講座「いちごスクール」

～新規生産者の育成にむけて開校 長期の発展見すえて～

JA西三河・JAあいち経済連・西尾市・愛知県とJA西三河いちご部会などで組織するJA西三河いちご産地振興委員会は今年4月、施設イチゴの新規就農支援プロジェクト「いちごスクール」を開校します。「いちごスクール」では、栽培技術などを生産者が直接指導する実務研修から、経営研修・農地取得・補助金申請などをセットに、新規就農・1ターン就農者を専業農家まで育成します。

西尾市は年間約1000トンを生産する県内一のイチゴ産地。しかし生産者の高齢化・離農などから、今後段階的な規模の縮小が予想されていました。「いちごスクール」はこの対策として、栽培講座の開催により地域に新たな生産者を生み出し、長期にわたる「イチゴ産地・西尾」の維持と拡大につなぐことを目的としています。

今年度開校する第1期のいちごスクールには5人の受講生が入校し、5月下旬の開校式以降、イチゴ農家による本格的な研修を開始します。

また、2020年5月に開校する第2期いちごスクールの受講生募集も開始しています。

※いちごスクール開校式については、日程が決定次第、別途ニュースリリースにてご案内の予定です。



新規栽培者募集のパンフレット



受講希望者への事前説明の際、農家のイチゴ栽培施設で農作業を体験する（2018年6月）

■いちごスクール第2期 受講生募集要項

【応募資格】

- ・満18歳以上で、研修終了後は施設栽培イチゴの生産者として就農意志が明確な方。性別・出身・農業経験の有無は問いません。
- ・研修終了後に西尾市内で就農し、JA西三河いちご部会へ加入できる方。
- ・通年で西尾市内の研修受入農家へ通える方。

【応募方法】

JA西三河本店2階（営農部指導販売課）または小牧センターに用意する申込書・履歴書に必要事項を記入し、必要書類と合わせて直接持ち込みまたは郵送にて申し込みください。また、必要書類の様式はJA西三河ホームページでもダウンロードできます。

【募集開始】

2019年4月1日～

- ※ 12月末までの募集を予定しています。また予定人数に達した場合には募集を終了する場合があります。
- ※ いずれも応募書類は上記期間内必着です。また、要望があれば随時ご相談に応じます。

【研修期間】

2020年6月から2021年5月までの1年間（予定）

【申し込み・お問い合わせ】

〒445-0073 愛知県西尾市寄住町下田15 JA西三河 営農部 指導販売課
TEL:0563-56-5272 メール: hanbai@ja-nishimikawa.com